特別
ヘ13
4425
1
早稲田大学図書館

宮城県図書館蔵書

和かのれみちのくにまいりしとき
ひしの雑歌
とてどもとりあつめたるなかに
くて年月とおもふほどにとしたのし
みにうつりぬでや初かのれとくはのほゆきれ
ものの絲のすがくまでしさとあふ
らんとおもふもおしさをべてこころ
とろくへはやまとうたのこの濱のまゝのうぐく
みよもかしらもじぐれば此のれおきらはお
ぼろねのさかりてはそのとのうちしら
おもふにそのひとりのみそとあか

小町谷あつ子

〈2018-70〉

くしてぞうのはくはつをたうさまぶぜは
いろりて文字のぞくもさぎまりしりや。
みてといづとのほよ八ゐろぬやのちろると
ちらんじてうませをふ
八やをゝ川いづといをうさはをしめる
やをうさはをるそのやをうさば
えれ三十一字れうこのりぢめゐちぞれちり
代をゝよゝてちなかんぼくをむしのゝた
はこのくちあをゝはけをいをさうんうて
ぷくをはをもろんぎ男ようぎゝばなは

しゝやぷふんをを平代仁ぬを望乃
ぬ代よ。ゐねのぐんじをゝをゝをゝをゝ
をけゝこをちゝて。ぜうゝれをれ年人匡
さ。和漢風序乃如たゞひゐくぞのゝゝち
きゝあていけゝうゝゝりゝゝぞきゝ久ろ
そのはをきゝだりゝゝあ門行ゝびくれイ
しがぷりゝう裏のゐゐりゝよ。月の谷
ちゝべゝゝて。動ゝゝ魅をたれおいて
くゝとゝぐゐまぷて。ゝをちがあいてゝはぷ
をれゝちゝとはぐゝをゝいゝちぷを

乃ぶすくちうづきてぷやゆうよりあり
ふれどもあり　ほくくとんてきいたれ
ぷのこまちといひしへい平乃上あるんで。
ほうーりがおりてしらるひぐらしぷつもし
て明乃ぷ乃の平ばあんじがぐやうて
まくこちうんせしぐやおりてあいぐ
しうはぐうりて明乃平ばぐんぐあす
いおうまじふれぐ私宅へこのびいり平
とはきて宮乃ちあげうれよちぐうくと
あくんてぷちも化れ様おせんどてけへ

一人やつれこまちぐりくへうてぷとあ
らうろこのびてこうふうおんのごく
こまちはうれとまうくしてでいくあく庭
とあうておうりぷまうはりはだり
の日平合ありぷ髭ハあるこの若あいてハうあ
しうりぷぐや平とうんうてぷぐあん
じてうこ平有ぷだんくこうつりう
まうくこうぷかうれてうさまの
波乃うれくあひしうくうん

やうみさうくらうぶろうをきてう
さしくありひぬ。つれ一人よむらい。
ありとたづねよれ申候ばかりきてあ
とこいろれいぶろうをきてんとうぶのと
きてしそのすがたあとまきれぬ人
まうくうりのをとまきて風ちらす乃
畠乃うえをきびろびあるうん
とさくしぐいくちびいまみとうれい
ぶろうしらうひやとまきよあう
ぶさそとこまうれ申はさしまうら上

よりおのおのひしゃくをたるまをはせよ
ものかけるべきものとおもはれずいざやこれを方
案案をしるきられぬべくあるべきと上
はなるもののきこえいりなくかんとそのもとび
いきそもとびをとんばはらて
ときはれてぬるるをとりもかるるしが。
かくて和しあはせの合の日ふるかりられ
ぬるくと清涼殿にまでたのうあるぽすて
はるゆさはれまのくまりつぶれ
歩人のはかるけものくるるんたん

さくうりいでしぽまんまでさげるるさて
ほぽ殿へまいりるまんくんぽかるとけど
めぽ内のうるまぽさのつるゆさぽらぽたで
うるまぽさのとるのうぽるるのられまりぽ
ぽりるぽるる方のうれまりぽ
しめるりぽてはしはうんしてぽらる
くしぽまりしのぽるぽ小町があるて
まぽるるめりとさぽあるりぽまぽくゆるるぽ
ものとるるあげるとおもはるんぽるゆさか
しこまりてるるあげるる。　為忠の歌

さうるくに行とうさまれ
はのうねくあひとうろうん
とうとおげうれぱぱでうきめあう
おうろうはうよしやみこの年まま
したうんハうもあうまじと敬意のめる
ぎうしぱうろあ一ほまんうりいで
中おげうるぱこ年まうの年めけうとうと
くあげ行うんでれうれぱまうくた
ゑうてうあハうまうとみうはうまうとく
うりぱうよ小町あんでハ行うてあう年弘

やぞとあうせうぎされうまはぱ小町うけたま
りうぱうてをうげうき宣旨うあ年代の
むうしハうきうぱうぱでふうをうりひめぱた
のうまうんうをあ年をうせうひうの清よ
あうれうんぱほうまれ四年ううきうの
うぱぱうあうるうまうはよれ春
のううれうまうとあうせあけうれうハうあ
あううぞやたうし古しん歌のちうく
せんうぱうさハあくの家うよハうた他
ゃうハうれうまうまうをぱ行くかうう

てさうせう人とりなれいろはすきてされ
ハうそとよそれ沖の白なてハいつでく養
ゆづさぢうしハ万葉歌いろはの生
よおりしさどくぢうくハ上ばとられれ
ハ仮名ハそれうりぐしぢうとなり
きうてうそしくそどれうら

こもちろんかきてやうぎやそれ万系
きこいはなしのこの字やんじやハ橋乃
りうこん京のうどんハおもて七条まをしび
てやうハかきてゆうあるじさうおくまん
ようこそのおかのきぬかぢうあハ
こんぶやうきさんとをこんぶろあうさ
初てよれいるハふさんようあまこ乃
ちんのあるべきぞくろしかてあう
京都繁しうひ表京のかまし乃ハ
んとのはすもろとりあうあり

かくあるそんしてのこんハされどよはくは
あるとつくまをやはくくとろハ
いやいふあるをやはくくとろハ
あるこのあるぬよまろ名ばそたそま
きんとのはすもろやおろうあのはろう
ひやとたのくとろにあるおてをろう
あるこげざうしあるうこんごとまいあを
をくをあるくくうをそけよはらん
あるてをふろあるさあるばはうこの紙
ケとををしてをまちよこんをををそそび

くちくしやうありしぶけなりて
ふとてのれ万葉集とりいでゝ
きて叡覧ようそるへ人ひろまづ表れ歌よは
之表かりるれ寸とりでゝ
ちのうぐひすをよみ
いとゝ
さきくてうぐひすの
くのはなざくらをいとめてきそ
枕ふれかれとえ梨つぼみ
さじ乃寸ひりの年もすさられ

ろとゝさうびのこゝろやうをえ
しくとぞふれしかやまぶきの花より
とゝ
しぐ
さき表の歌とうるぐわさて
いくとそしきさうれなのぐれて食
寸ありてぞ
ハぐまへ
うれてぐとき
こまちれうれ

一ぷ町そしらやぱんちの茶
ときのりれひとまちもまれすてさも
ちやぱくちうとりてぷ
くそのりれぷがくのあがちま
でぷんとまくあがうんとぷゆ
うのうちてぷそづそそおう
ク

やまりてなるべく紙とぼうしとれあげ
ちくはくるよ。彩のかのそばいとさぐろうて文字
のもをいろぶれ。さとはたるさちぐひろう。
いうを白うしぎあり。ぶくとあんどろぐ
きはまきくしくるはぶ。ぶうりぐぜーとく
ろあしぐのちうしーうひぐはうしは
うさいれぶうるをあやぜわげんぐんの浮
金ようう浮きんはりうすまぐくんとぐな
をあうぐよびりぶれねぐふ。
ちうれあれるびをひをびあげてぶれ

はうしぶあうのひてずれをいをたぐふ
やくうひけてぶなくく産とばられれ
ぶうゆさうれとをうひてぶうとものお
ぐやうかぶさあうはたぐくちうぶ
ぐん蓼しやうきんをてぐりてげうし
ゆあぐれぶぐこをうりぶふくうもち
ゆやうきんをうるりぶのぐうてあるか
らぶはうしぶあうひたぐぜちちく
ぐうありうれぶそのれ動上のくこ
かなれきんぐうをいれをうるれたひ

とうそくてこまちうまへこそとうりけ
ア。懸ぐんあれいうれしく
ゐくへつ。ぶだうたいむしんてうこうら
うけ。ぶやはうしゐあうくんとうちよ
アさうしうりあげてぷうやつてくく。
顔泉（きいせん）ようゐおひしいぷぐまうせとい
きうくすまうくんこのうあうりまれす
とおいていぷうろひしいふうげけ
くてかうとれ神をそうぐんぷれうゐ
わいていたのういうまひさうぐれよ

ようとさうう雪しうをけまくしやすさうて
うれしいうまぷまうとおうそうは代いうをよ
しうぷ。ぶさしまうゐ代のわぷさしようしうう
らううとぷうとうゐてうれいうしぎやぷす
くしくぷひいてうれいうしぎやぷす
くうのうれぷくしやと毛と文字（じ）より
たうぷいしぐぐうるうるうるぷへ（かうろう）まうゐ
うさうとうぷぐはは一字うとぐうるうぷぷ
くくをまうくうぷうりうぷおうりわうのは
まやぷいぷぐとうまうぷつうまうん丸

あらひとそのりこれとられて後神のほろ
ひぞこ一おぐらぐらひとをりいろ
とをかしいそけてほうこさちげれば。
高ばりぐわりう一度のくくこれふり
ぎれるりとそぶきちがすこれはあけ
ふろりめ一けうこうりとおぐく
しやりひらんぐろはるんぐとう
てんしぐのちぐくいぐうまぐど
ぐいちんとこちこぎぐれぶちち
そたなばひきこわるくほこと

りはこるるれぐもぐこれこいれ
しりけぐろかぐちはたるんぐ。
どるこかりこそありはこわほし
はるん一人こうこうこぐこそこちん
ひやこいこわくこぐうぐこれをほうん
ありてぐふころわし和ののこれ
まぐりりぐれかくこそあうべる色。
なるのこうこうぐべき度こるこうべし
とちこくしぐやこうありくれいぐろわし
ありづかくこりひぐいこそせんぐとそ

ものぐさきてぱのやんぐくりてうひを
とのざしきよりはぐだりていん
はゆりてうくぐこまちぶうちはぐ
わすでよはえしすけぶうちぶれど今
のせよいてうまでいつりとまんぷ
きちぶしゃんとすまばぐうてふもぐ
きちぶとるうりあれわすきいうりん
あるべきにぱ保百りとるうん